

受託者：
社団法人 日本森林技術協会

平成 21 年度
野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査
(屋久島地域)
報告書

平成 22 年 3 月

九州森林管理局

目 次

第1章	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査対象地域	1
3.	調査の内容	3
第2章	地域の概況	4
1.	基礎調査	4
1)	ヤクシカの生態、分布、生息状況	4
2)	ヤクシカによる被害状況、被害対策の現況	8
3)	屋久島における狩猟者の状況	9
4)	参考となる全国におけるシカ対策	9
2.	調査対象地域に関する概況調査	13
1)	自然的条件	13
2)	社会的条件	23
第3章	全体調査実施計画の策定	30
第4章	平成21年度調査	34
1.	生息状況調査	34
1)	糞粒調査	34
2)	糞塊調査	39
3)	ライトセンサス	43
2.	被害状況及び生息環境調査	47
1)	標準地調査	47
2)	ライン調査	53
3.	季節移動調査の検討	68
1)	テレメトリー調査	68
2)	捕獲対象の検討	69
3)	発信機装着のための手続き	70
第5章	被害対策・捕獲手法の検討	71
1.	ヤクシカの保護管理及び捕獲に対する課題	71
1)	保護対象の検討	71
2)	被害対策の検討	71
2.	個体数管理手法の検討	73
1)	保護管理のあり方	73
2)	個体数管理の必要性	74
3)	個体数管理（有害鳥獣駆除）の進め方	74
4)	新たな捕獲方策（捕獲柵等）や地域の連携体制の検討	75

5) 捕獲実施への配慮事項	78
3. シカとの共存のための生息環境等の保全・整備に関する検討	78
第6章 検討委員会の設置・開催	79
参考文献一覧	80

- 資料一1 糞粒調査結果
- 資料一2 糞塊調査結果
- 資料一3 ライトセンサス結果
- 資料一4 ライン調査結果

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

屋久島の森林生態系には、海岸部の亜熱帯から亜高山帯に及ぶ典型的な垂直分布が見られ、世界的にも高く評価されており、平成5年には世界自然遺産に登録された。特に、島の西部地域における海岸部から国割岳（1,323m）の西側斜面には屋久島の固有種をはじめとする多くの貴重な植物が多く生育している。また、標高400mから800mにかけては、絶滅危惧種に指定されているヤクタネゴヨウが自生している。

近年、これら地域を含む西部地域において、ニホンジカの亜種にあたるヤクシカが著しく増加し、その食害が増加・拡大し、林床植生の食害に伴う希少植物の消滅や天然林の更新阻害が懸念されているとともに、住民生活圏内での被害も確認されている。

本事業は、このような状況にあつて、早急に対策を講じる必要があるため、ヤクシカの生息、移動状況や被害の状況等を把握し、森林生態系の再生・保全のための総合的な対策を検討し、推進することを目的とする。

2. 調査対象地域

調査対象地域は、図1-1のとおり屋久島森林管理署の管理する国割岳（標高1,323m）の西側に位置する平瀬国有林内1～4林班内の約850haの区域である。また、調査対象地域は、世界自然遺産登録地、霧島・屋久国立公園区域に指定されている。

表1-1 調査対象地域

林班番号	林班面積 (ha)
1	95.07
2	275.14
3	311.02
4	167.74
計	848.97

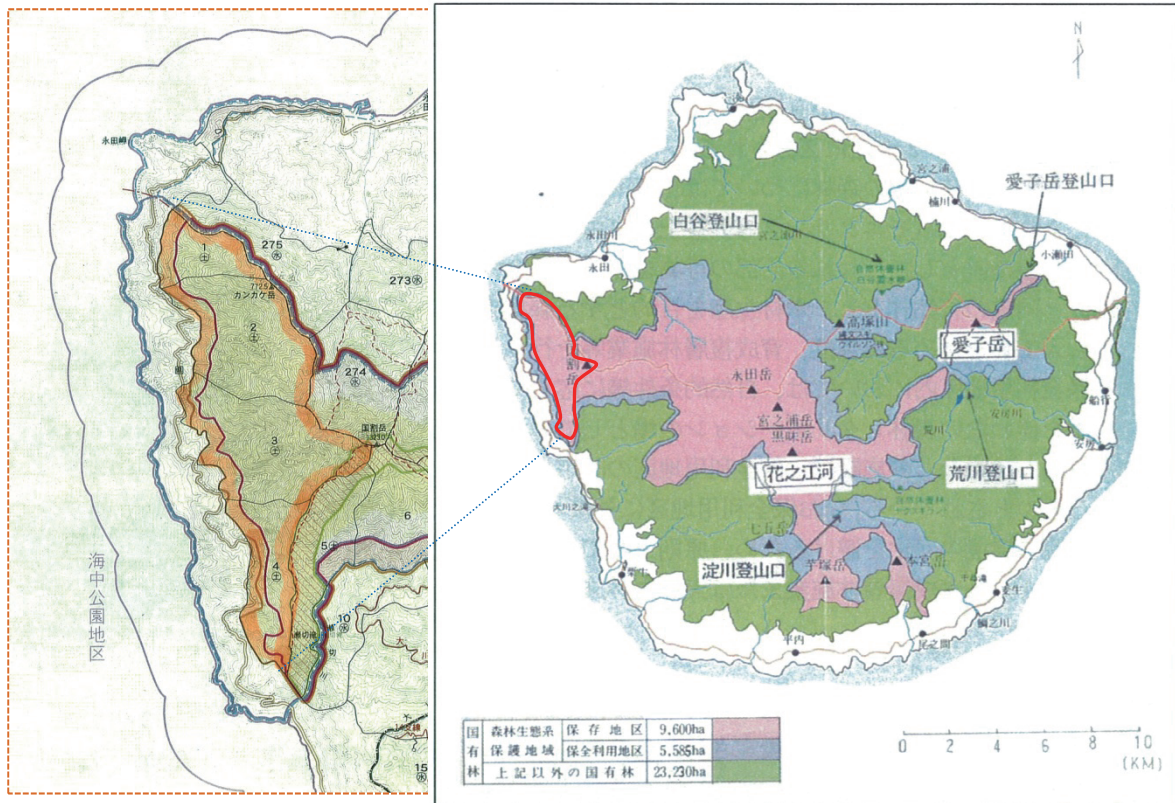


図 1 - 1 調査対象地域

3. 調査の内容

調査は、つぎの項目について実施した。

表 1 - 2 調査の内容

事項	内容
1 - 1 基礎調査 1 - 2 概況調査	<p>ヤクシカの生態、分布、生息状況、ヤクシカによる被害状況、被害対策の現況、参考となる全国におけるシカ対策について整理する。</p> <p>調査対象地域の概況把握のため、自然的条件及び社会的条件について調査・整理する。</p> <p>自然的条件：地形・地質、気象、植生 社会的条件：各種法的規制、周辺土地利用・道路状況</p>
2. 全体計画策定	<p>ヤクシカの個体群の安定的維持とヤクシカ被害の軽減のためには、生息環境の管理、生息実態の把握、計画的な個体数管理及び効率的な被害対策等を合わせた総合的な対策が必要である。これらの全体的な調査及び対策の効果についてのモニタリング等を5カ年間で実施することとし、全体調査計画を策定する。</p>
3. 現地調査	<p>21年度業務として、つぎの項目について現地調査を実施する。</p> <p>生息状況調査 調査対象地域におけるヤクシカの生息状況（生息個体数の把握）を把握するため、糞粒調査、糞塊調査及びライトセンサスを実施する。</p> <p>被害状況及び生息環境調査 調査対象地域におけるヤクシカによる被害の状況を把握するため、標準地調査及び単木的被害調査を実施する。また、生息環境の実態把握のため、森林における群落調査及び植物相調査を実施する。植物相調査では、保護対象の把握として、貴重種の分布についても把握する。</p> <p>季節移動調査</p>
4. 被害対策・捕獲手法の検討	<p>①ヤクシカの保護管理及び捕獲に対する課題 調査対象地域におけるヤクシカによる被害の実態について整理し、保護対象或いは被害対策を検討し、保護管理及び捕獲に対する課題について整理する。</p> <p>②個体数管理手法の検討 保護管理のあり方、個体数管理の必要性等を整理すると同時に、調査対象地域における個体数管理の進め方及び新たな捕獲方策や地域の連携体制等について検討する。</p>
5. 検討委員会の設置・開催	<p>事業の具体的内容、調査の進め方・手法、報告内容等について検討する。</p>